



8:1 以上述べてきたことの要点は、私たちにはこのような大祭司がおられるということです。この方は天におられる大なる方の御座の右に座し、

8:2 人間によってではなく、主によって設けられた、まことの幕屋、聖所で仕えておられます。

8:3 大祭司はみな、ささげ物といけにえを献げるために任命されています。したがって、この大祭司も何か献げる物を持っていなければなりません。

8:4 もしこの方が地上におられたなら、祭司であることは決してなかったでしょう。律法にしたがってささげ物をする祭司たちがいるからです。

8:5 この祭司たちは、天にあるものの写しと影に仕えています。それは、モーセが幕屋を設営しようとしたときに、御告げを受けたとおりのものです。神は、「よく注意して、山であなたに示された型どおりに、すべてのものを作らなければならない」と言われました。

8:6 しかし今、この大祭司は、よりすぐれた契約の仲介者であるだけに、その分、はるかにすぐれた奉仕を得ておられます。その契約は、よりすぐれた約束に基づいて制定されたものです。

8:7 もしあの初めの契約が欠けないものであったなら、第二の契約が必要になる余地はなかったはずです。

8:8 神は人々の欠けを責めて、こう言われました。「見よ、その時代が来る。——主のことば——そのとき、わたしはイスラエルの家、ユダの家との新しい契約を実現させる。

8:9 その契約は、わたしが彼らの先祖の手を握ってエジプトの地から導き出した日に、彼らと結んだ契約のようではない。彼らはわたしの契約にとどまらなかったの、わたしも彼らを顧みなかった。——主のことば——

8:10 これらの日の後に、わたしがイスラエルの家と結ぶ契約はこうである。——主のことば——わたしは、わたしの律法を彼らの思いの中に置き、彼らの心にこれを書き記す。わたしは彼らの神となり、彼らはわたしの民となる。

8:11 彼らはもはや、それぞれ仲間に、あるいはそれぞれ兄弟に、『主を知れ』と言って教えることはない。彼らがみな、小さい者から大きい者まで、わたしを知るようになるからだ。

8:12 わたしが彼らの不義にあわれみをかけ、もはや彼らの罪を思い起こさないからだ。」

8:13 神は、「新しい契約」と呼ぶことで、初めの契約を古いものとされました。年を経て古びたものは、すぐに消えて行くのです。

イエス様が永遠の大祭司であることが論じられています。

イエス様は天の「聖所」において仕えておられます。ですからその働きは永遠であり、またそのとりなしは世々に渡って有効です。ですから私たちは心強いのです。

またイエス様は、旧約の祭儀のように律法に従ったささげ物を要しません。ご自身が十字架で犠牲の身代わりとなられたからです。

旧約の契約は「欠け」があったというこのことですが、それは神が与えたものであるから、い

わゆる「欠陥」ということではありません。罪ある弱い「小さい者」である人間が救われるには至らないということです。問題はあくまでも人間の罪にあるのです。

しかしそれでも神様は全ての者が救われるように、十字架の贖いを成し遂げてくださいました。その大祭司であるイエス様に感謝し、信頼しましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

